

諏訪之瀬島の火山活動解説資料（平成 24 年 5 月）

福岡管区気象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方気象台

御岳^{おたけ}火口では、噴火¹⁾は発生しませんでした。長期にわたり噴火を繰り返しています。今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。平成 19 年 12 月 1 日に火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 5 月の活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図 1、図 3）

御岳^{おたけ}火口では、爆発的噴火²⁾は発生しませんでした（4 月：なし）が、25 日、26 日、28～30 日にごく小規模な噴火が発生しました。

噴煙の最高高度³⁾は火口縁上 600m（4 月：300m）でした。

同火口では夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を時々観測しました。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、25 日、28～30 日に島内の集落（御岳の南南西約 4 km）で降灰が確認されました。

・地震や微動の発生状況（図 3、図 4）

火山性地震は少ない状態で経過しました。月回数は A 型地震⁴⁾が 11 回（4 月：21 回）でした。B 型地震⁵⁾は 205 回（4 月：85 回）でやや増加しました。

5 日、25～26 日に火山性連続微動が発生し、火山性微動の継続時間の月合計が 40 時間 11 分（4 月：9 時間 26 分）と増加しました。

・地殻変動の状況（図 2、図 5）

GPS 連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

- 1) 諏訪之瀬島では噴火活動が活発なため、噴火のうち、爆発的な噴火もしくは噴煙量が中量以上（概ね噴煙の高さが 1,000m 以上）の噴火の回数を計数しています。資料の噴火回数はこの回数を示します。また、基準に達しない噴火は、ごく小規模な噴火としています。
- 2) 諏訪之瀬島では、爆発地震を伴い、島内の空振計で一定基準以上の空振を観測した場合に爆発的噴火としています。
- 3) 2003 年 3 月 28 日以降、噴煙の最高高度は遠望監視カメラによる観測値と十島村役場諏訪之瀬島出張所の報告のうち高い値を用いています。
- 4) P 相や S 相が明瞭で高周波成分が卓越する地震です。
- 5) P 相や S 相が不明瞭で低周波成分が卓越する地震です。

この火山活動解説資料は福岡管区気象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 24 年 6 月分）は平成 24 年 7 月 9 日に発表する予定です。

※この資料は気象庁のほか、国土地理院のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。



図1 諏訪之瀬島 5月30日の状況 (キャンプ場遠望カメラによる)
灰白色の噴煙を火口縁上400mまで上げました。

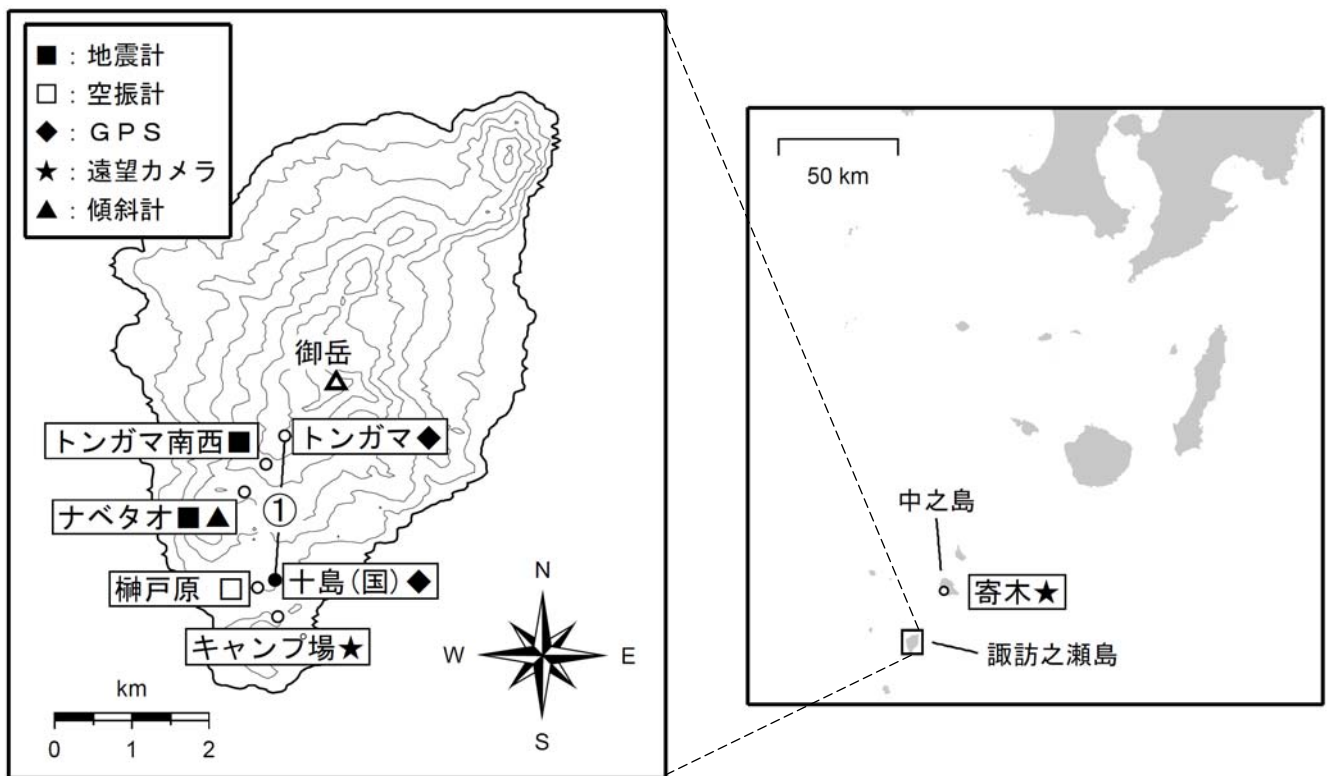


図2 諏訪之瀬島 観測点配置図

小さな白丸は気象庁、小さな黒丸は国土地理院の観測点位置を示しています。

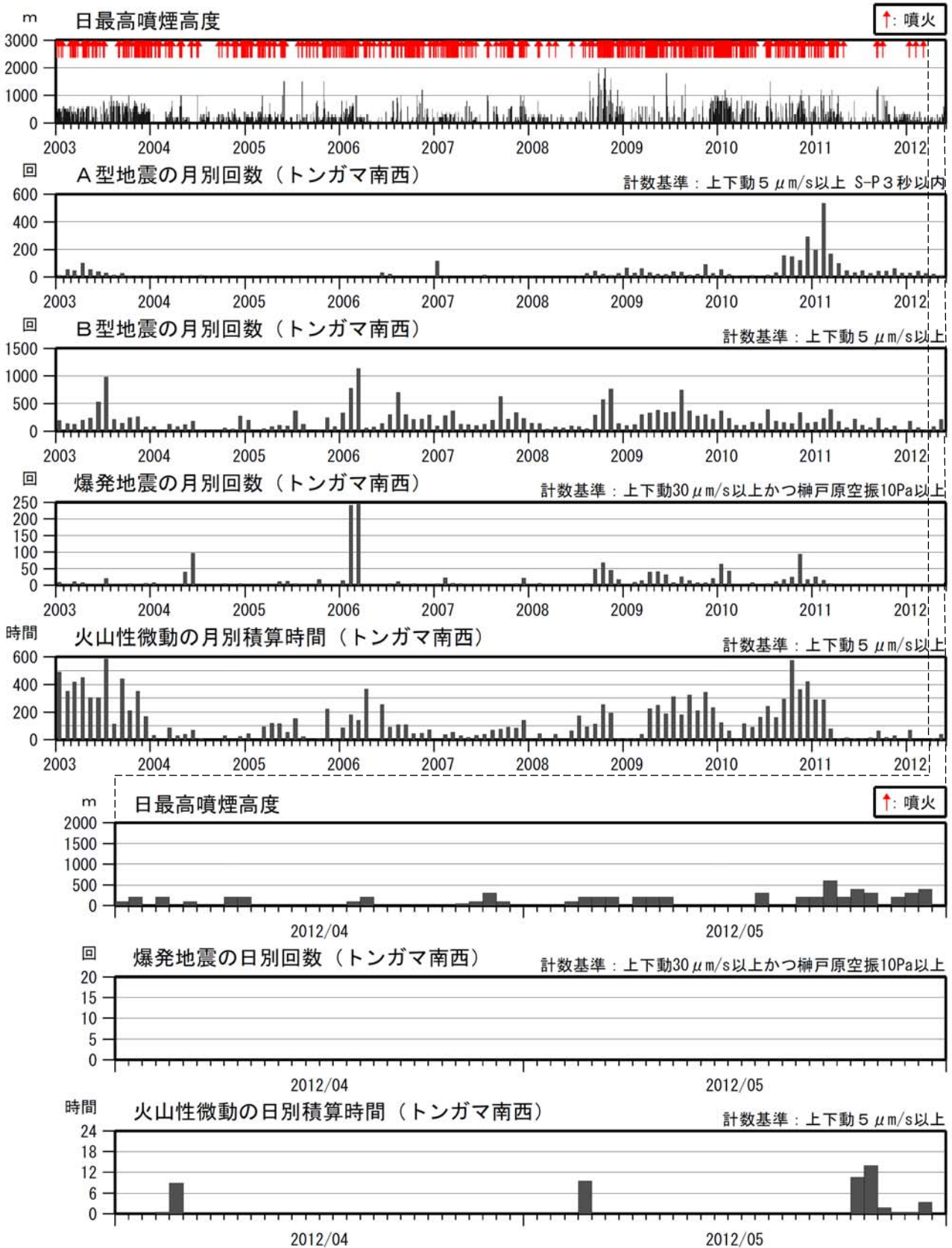


図3 諏訪之瀬島 火山活動経過図（2003年1月～2012年5月）

長期にわたり噴火を繰り返しています。

<5月の状況>

- ・爆発的噴火は発生しませんでした。
- ・火山性地震は少ない状態で経過しました。月回数はA型地震が11回（4月：21回）でした。B型地震は205回（4月：85回）で、やや増加しました。

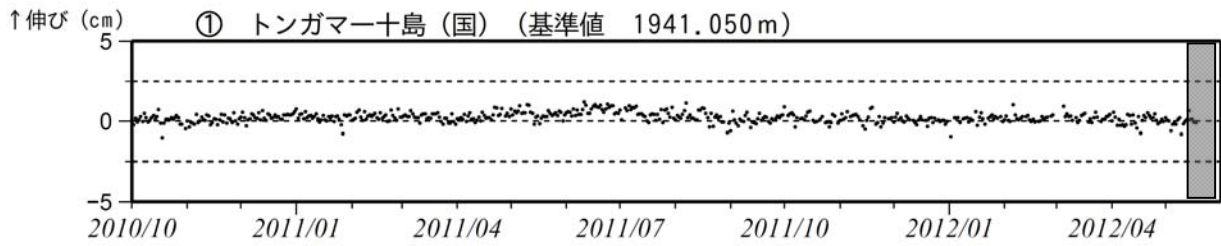


図 5※ 諏訪之瀬島 GPS連続観測による基線長変化（2010 年 10 月～2012 年 5 月）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

この基線は図 2 の①に対応しています。

灰色の部分はトンガマ観測点の危機障害のため欠測を示しています。